

顧客に満足

日本ルツボは2014年に創業129年を迎える。金属を溶解するため用いる耐火容器である「るつぼ」を社名に冠し、この間、鑄造・鉄鋼業界に貢献してきた。社是として掲げているのが「人に笑顔、仕事に挑戦、社員に安心、社会に貢献、顧客に満足、会社に利益」だ。この社は岡田民雄会長が96年の社長就任時にまとめた。それまでは明文化されていなかった。

日本ルツボ

不変と革新

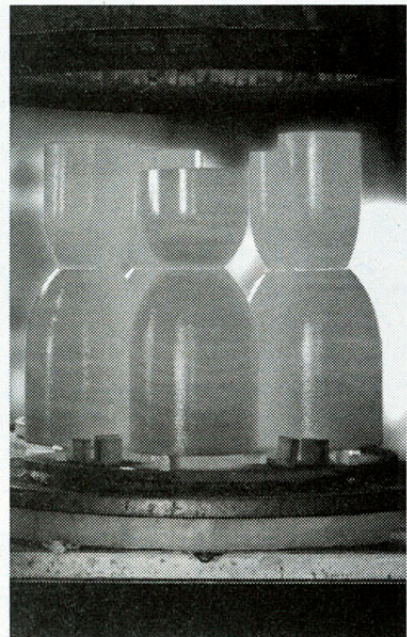
パート2 貫く企業理念 (51)

「顧客に満足」と言い切る。現在、売上高の6割は鑄造関連品が占める。耐火物やるつぼなどの既存事業の顧客を大切にすることで、経営基盤をしっかりと固める。

それが「会社に利益」にもなる。「利益はお客さまの満足度に対するサービス料。利益が多い企業はその分だけお客さまに満足度を多く与えている。そして利益が出る企業体質にすることで社員が安心して働ける」。顧客と社員の笑顔にもつながる。

環境分野に力

日本ルツボは創業当時から研究開発型企業。これは今も変わらない。



経営

金属を溶解するために使われるるつぼの製造工程

「つ」は続ける、「て」を上げ同社比で8-12%燃費を節約できる。国内のアルミダイカス

企業概要

冷めない取鍋

「つ」は続ける、(明18)に創業し、耐熱性の高い黒鉛るつぼの生産を始めた。その後、09年に「ゼブラックス」、11年に省エネルギー型るつぼ

「新製品の開発」「新市場の開拓」「新事業の構築」は、仕事に挑戦という言葉に集約されている。産業構造の変化とともに新たな用途や新市場を探ってきた。近年は成長分野として「環境」に力を入れている。13年3月から豊田工場(愛知県豊田市)の粘土鉱山跡地を活用し太陽光発電の売電事業を始めた。

「た」は体験、設立を皮切りに中国やタイなど海外に生産拠点を設立し、グローバル展開している。正社員数は152人、14年3月期の売上高は78億円の見込み。

「私は文科系出身だが開発も手がけてきた。私溝をつけることで熱効率

0年に東証2部上場。75年にドイツでの合弁会社設立を皮切りに中国やタイなど海外に生産拠点を設立し、グローバル展開している。正社員数は152人、14年3月期の売上高は78億円の見込み。

開発方針は「たちつてト」

表現している。例えば「顧客に満足」。岡田会長は「真剣にユーザーニーズを知ろうと努力する。お客さまが求めている製品が当社にない場合、他社から仕入れたら、輸入したりしてでも提供したいと考え

るつぼなどの耐火物メーカー。1885年(明治18)に創業し、耐熱性の高い黒鉛るつぼの生産を始めた。その後、09年に「ゼブラックス」、11年に省エネルギー型るつぼ